〇日 時: 平成 28 年 (2016 年) 12 月 15 日 (木) 17 時 30 分~

〇場 所:庄内こども園

関係に対検含の例が掲載されているが、今回の新いに学校  技術会を建設するのに、いくらかかるのか、金額はわ かっているのか。  (生徒数が、想定している正内小学校、干成小学校の数地に施したものであり、資料のような校舎を選起した場合、安全かつ快適に学校生活を送ることができるかチェックすることを目的に作成したものであり、資料のような校舎をそのまま建てるわけではありません。新しい学校の校舎を建設したいます。新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な金額を育出していませんが、全国の市町村で建設されている校舎の事例、施設体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する投資では、国から金額助金等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段節では、国から金額助金等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段節では、国から金額助金の様々を登建設していきたいと考えています。大会に対しているように、参照の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。  今回の新しい学校は、施設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、施設面での工夫が求められまずので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましては、今日の構想求を考慮し、ブレハブ校舎等に変更しています。既に減薬した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしている子ども透め安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震工事は、今日の構想求を考慮し、ブレハブ校舎等に変更しています。既に減薬した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしている子どもためが移り、新たない中、責後、北校)の小学校、第十中学校の敷地に、第十の学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中一貫校(北校)の中学校の子どもたちが移り、新たない中で教の子どもためではありませんの。	〇場 所:圧内こども園 「	
株の検舎を建設するのに、いくらかかるのか、金額はわかっているのか。  生徒数が、想定している庄内小学校、千成小学校の数地に施設一体型小中一貫校の校舎を建設した場合、安全かつ快適に学校生活を送ることができるかチェックすることを目的に作成したものであり、資料のような校舎をそのまま建てるわけではありません。新しい学校の校舎の整備については、計画が定まってから検討していくことになります。新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な金額を背出していませんが、全国の市町村で建設されている校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。。  「会国の新しい学校では、施設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同し敷地内で安全に過ごせるように、また、中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震とを順次進めてきまして。今後、利活用するこ内ので検討することとしておりましても、今後、利活用する方向で検討することとしておりましても、今後、利活用する方向で検討することとしておりましても、今後、利活用する方向で検討することとしておりまして、東京変りては、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、定内小学校の発したがおり、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校ととて明秋することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討	質問・意見等	豊中市からの回答
かっているのか。	資料には校舎の例が掲載されているが、今回の新しい学	今回の説明資料にある校舎の例は、あくまで見込まれる児童
学校生活を送ることができるかチェックすることを目的に作成したものであり、資料のような校舎をそのまま建てるわけではありません。新しい学校の校舎の整備については、計画が定まってから検討していくことになります。新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な金額を算出していませんが、全国の市町村で建設されている校舎の事例、施設一株型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 す。 す。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 のではかけか。 おおいつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 ではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、ブレハブ校舎等に変更しています。既に減楽した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開検する、という企業のの小学校の場合に減楽した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしています。これまのまさに対しています。これまのお客は、新たな小中具校(北校)の小学校、第十中学校の教地に第六中学校の予ビもたが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討	校の校舎を建設するのに、いくらかかるのか、金額はわ	生徒数が、想定している庄内小学校、千成小学校の敷地に施
成したものであり、資料のような校舎をそのまま建てるわけではありません。新しい学校の校舎の整備については、計画が定まってから検討していくことになります。新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な金額を算出していませんが、全国の市町村で建設されている校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 今回の新しい学校は、建て替えをするのか。島田小学校 今回の新しい学校では、施設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、ハ・中、重校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、ブレハブ校舎等に変更しています。民に減衰した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、という会が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきましても、今後、利活用する方向で検討することとしていいき考えています。これまの場では、対しの場が表した。カーに関わずを表している子どもたが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の予ともたが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の教地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討	かっているのか。	設一体型小中一貫校の校舎を建設した場合、安全かつ快適に
ではありません。新しい学校の校舎の整備については、計画が定まってから検討していくことになります。新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な金額を算出していませんが、全国の市町村で建設されている校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 「今回の新しい学校では、施設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、小中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に滅禁した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年 (2020 年) に野田小学校助一、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中貴校(北校)の小学校、第中中学校の野地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中貴校(北校)の小学校、第中中学校の子どもたちが移り、新たな小中貴校(北校)の小学校、第中中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貴校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		学校生活を送ることができるかチェックすることを目的に作
が定まってから検討していくことになります。 新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な金額を算出していませんが、全国の市町村で建設されている校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 今回の新しい学校は、建て替えをするのか。島田小学校 はまからの 市場の かっまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、小中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきまして。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、ブレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年 (2020 年) に野田小学校敷地に、たり、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  「国社の制度工事は、今日の構想案を考慮し、ブレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		成したものであり、資料のような校舎をそのまま建てるわけ
新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な金額を算出していませんが、全国の市町村で建設されている校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 今回の新しい学校は、建て替えをするのか。島田小学校 は恭設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、恵設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども違の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。 現在の想定では、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、た内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の教地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の教地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の教地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		ではありません。新しい学校の校舎の整備については、計画
金額を算出していませんが、全国の市町村で建設されている 校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 今回の新しい学校では、施設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども違の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、ブレハブ校舎等に変更しています。既に減薬した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。 現在の想定では、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)のの中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		が定まってから検討していくことになります。
校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数ありますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 今回の新しい学校では、施設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、小中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、というさいます。ないようにしたいと考えています。 現在の想定では、平成 32 年 (2020 年) に野田小学校敷地に、たけ、中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		新しい学校を建設する費用については、現段階では具体的な
ますので、これらを参考にすることができるものと考えています。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。		金額を算出していませんが、全国の市町村で建設されている
ます。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。		校舎の事例、施設一体型小中一貫校の建設事例等が多数あり
制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 今回の新しい学校は、雑で替えをするのか。島田小学校 は数年前に耐震工事をしたところなのに、もったいない のではないか。 ・ 一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に滅築した校舎につきましても、今後、利活用するか方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。 ・ 平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい ・ 現在の想定では、平成 32 年(2020 年)に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		ますので、これらを参考にすることができるものと考えてい
え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えています。 今回の新しい学校は、建て替えをするのか。島田小学校 は数年前に耐震工事をしたところなのに、もったいない ハ学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、ハ中ー貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に滅築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年(2020 年)に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		ます。実際に建設する段階では、国からの補助金等の様々な
する回の新しい学校は、建て替えをするのか。島田小学校 今回の新しい学校では、施設一体型の小中一貫校、つまり、小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、小中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成32 年 (2020 年) に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		制度の利用が可能であるため、豊中市の負担をできるだけ抑
今回の新しい学校は、建て替えをするのか。島田小学校 は数年前に耐震工事をしたところなのに、もったいない ハウ生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、 ハ中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施 設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい うことなのか。  現在の想定では、平成 32 年 (2020 年) に野田小学校敷地に、 庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校 (北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校 (北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		え、なおかつ、魅力的な校舎を建設していきたいと考えてい
小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、小中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。   耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。   島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。   現在の想定では、平成32年(2020年度)から、北校が開校する、ということなのか。   現在の想定では、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		ます。
のではないか。	今回の新しい学校は、建て替えをするのか。島田小学校	今回の新しい学校では、施設一体型の小中一貫校、つまり、
設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するのではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020年度)から、北校が開校する、ということなのか。  現在の想定では、平成 32年(2020年)に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討	は数年前に耐震工事をしたところなのに、もったいない	小学生と中学生が同じ敷地内で安全に過ごせるように、また、
ではなく、建て替えが必要であると考えています。 耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の 安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化 を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ 校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、 今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい うことなのか。  現在の想定では、平成 32 年(2020 年)に野田小学校敷地に、 庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一 貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の外子として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討	のではないか。	小中一貫校ならではの特色ある教育活動が行えるように、施
耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年(2020 年)に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		設面での工夫が求められますので、既存の校舎を利用するの
安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。 現在の想定では、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、方ことなのか。 現在の想定では、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、方ことなのか。 「皮内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		ではなく、建て替えが必要であると考えています。
を順次進めてきました。 島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。 現在の想定では、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		耐震工事につきましては、今学校で過ごしている子ども達の
島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年(2020年)に野田小学校敷地に、うことなのか。  庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		安全が第一ですので、これまで豊中市内の小中学校の耐震化
校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、 今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年(2020 年)に野田小学校敷地に、 ウスとなのか。  ・ 中内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		を順次進めてきました。
今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだけ無駄にならないようにしたいと考えています。  平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年 (2020 年) に野田小学校敷地に、		島田小学校の耐震工事は、今日の構想案を考慮し、プレハブ
		校舎等に変更しています。既に減築した校舎につきましても、
平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい 現在の想定では、平成 32 年(2020 年)に野田小学校敷地に、		今後、利活用する方向で検討することとしており、できるだ
<b>うことなのか。</b>		け無駄にならないようにしたいと考えています。
貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子 どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、とし て開校することとしています。これはあくまで想定であって、 まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討	平成 32 年度(2020 年度)から、北校が開校する、とい	現在の想定では、平成32年(2020年)に野田小学校敷地に、
どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、として開校することとしています。これはあくまで想定であって、まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討	うことなのか。	庄内小学校と島田小学校の子どもたちが移り、新たな小中一
て開校することとしています。これはあくまで想定であって、 まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		貫校(北校)の小学校、第十中学校の敷地に第六中学校の子
まだ決まったものではありません。 今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		どもたちが移り、新たな小中一貫校(北校)の中学校、とし
今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討		て開校することとしています。これはあくまで想定であって、
		まだ決まったものではありません。
していきたいと考えています。		今後、保護者、地域の皆さまのご意見をお伺いしながら、検討
		していきたいと考えています。

跡地は公園にするのではなく、入札して売却してほしい。 これまで公共施設になることが多かったので、民間への 売却も進めてほしい。

ご意見として持ち帰らせていただきます。